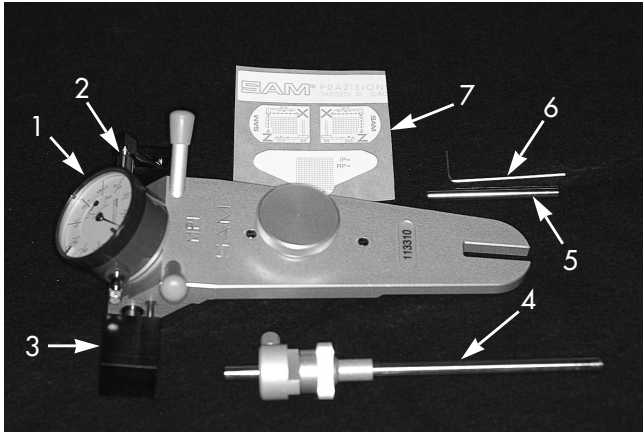
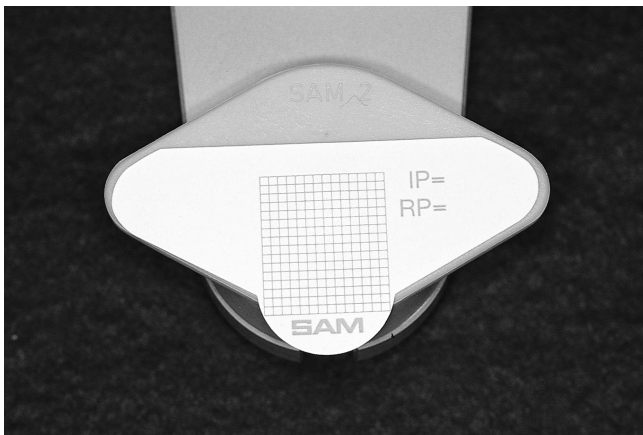




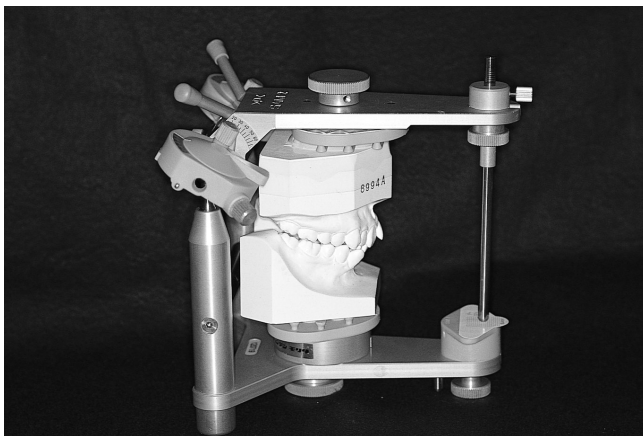
1. 下顎位の記録に用いる器具

Mandibular Position Indicator (MPI)

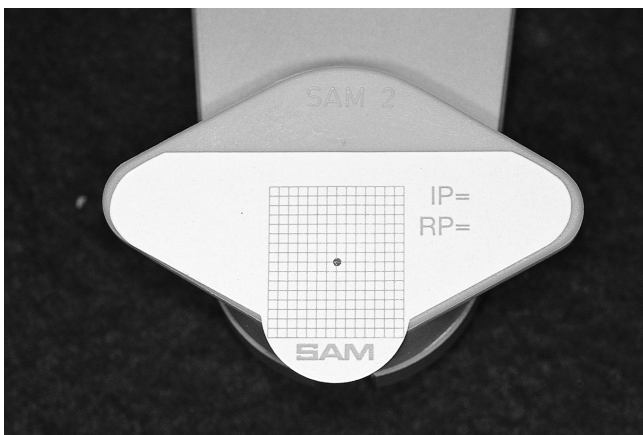
1. ダイアルゲージ
2. ダイアルゲージアーム
3. スライディングキューブ
4. インサイザルピン
5. ゼロ調整バー
6. MPI用レンチ
7. グラフペーパー



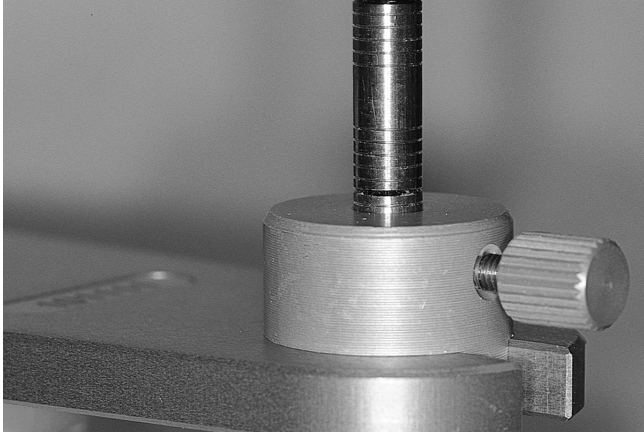
2. まず写真のようにSAM咬合器の切歯板にグラフペーパーを貼る。



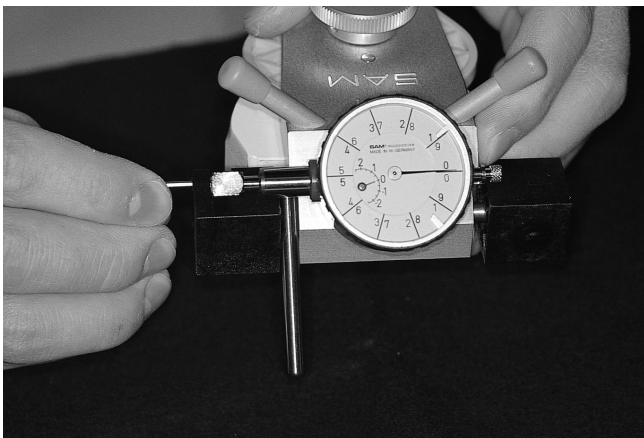
3. セントリックロックスクリューを締め、ゆっくりアッパーメンバーを閉じてゆき、基準位(RP)接触を生じた位置(最後方接触位)で切歯ピンを落とす。RPの位置が、切歯ピンとグラフペーパーとの間に咬合紙を介在させることにより印記される。



4. マークされたRPポジション。
(Delta i)

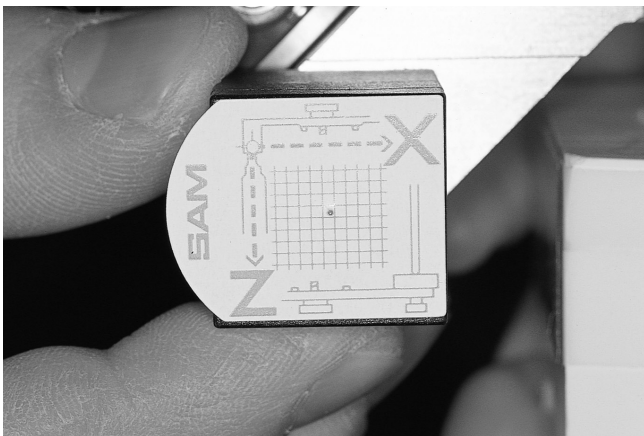


5. 切歯ピンを落とした状態でのピンの数値を読みとっておく。
太線よりも上はマイナス、下はプラス。
(Delta h)

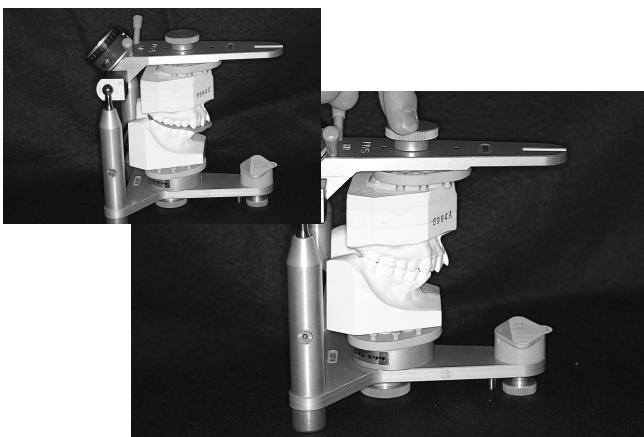


6. ゼロ調整

左スライディングキューブのスロットにダイヤルゲージアームを挿入する。ゼロ調整バーを写真で示す位置に介在させ、レンチを使用しダイヤルゲージをゼロに合わせる。



7. 左右のスライディングキューブの側面にそれぞれのグラフペーパーを写真に示すような向きに貼り付ける。ダイヤルゲージアームを解除した状態で左右のキューブを内側にスライドさせる。写真のように、グラフペーパー上にヒンジ・アキス(RP)が針により印記される。



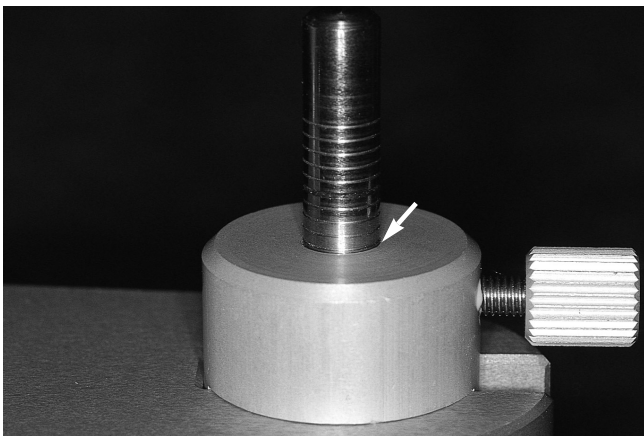
8. 上顎模型を咬合器のアッパーメンバーから MPI に付け換える。
上下顎模型を咬頭嵌合位で咬合させる。ワックスバイトなしでも明らかに咬頭嵌合位がわかり咬合状態が安定する場合はワックスバイトは介在させない。



9. ガタつきがないようにしっかり咬頭嵌合位で安定させ一方の手で押さえ、他方の手でインサイザルピンを落とし、グラフペーパー上に咬合紙でICPの位置をマークする。



10. グラフペーパー上にはRP (赤)とICP (青)の2点がマークされている。
(Delta i)



11. インサイザル・ピンの高さを記録する。目盛は矢印の位置を読む。太線よりも上はマイナス、下はプラス。
写真は+4を示している。
(Delta h)



12. 上下顎模型をしっかり咬合嵌合位で咬合させる。次に写真に示すように咬合紙をコンダイルとグラフペーパーの間に介在させ、キューブをスライドしコンダイルとの接触部を印記する。左右側とも同様にう。これはICP時の下顎頭の位置である。

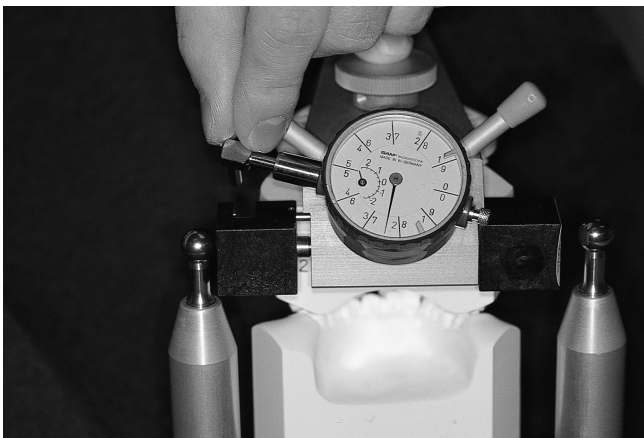


13. 左右のグラフペーパーには、それぞれRP（針穴）とICP（赤）の2点がマークされる。

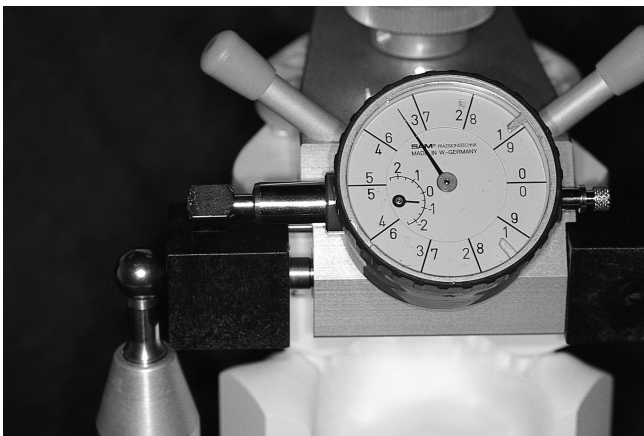
（Delta x）

（Delta z）

左右のグラフペーパーをはがし、所定の台紙に貼っておく。



14. 再びダイヤルゲージアームをキューブのスロットへ入れる。



15. このダイヤルゲージからは、コンダイルの左右への偏位量を左の顎頭を基準として測定することができる。赤いゲージ(右回り)は右への偏位量を表わし、青いゲージ(左回り)は左への偏位量を表わす。また、小さいゲージの単位はmmを表わし、大きいゲージの単位は0.1mmを表わす。写真の症例は、右へ約0.66mm偏位したことを示している。

（Delta y）